

令和3年(2021年)8月豪雨被災者支援 報告書



活発な前線の影響で8月11日から9日間降り続いた豪雨により、九州北部に甚大な被害をもたらしました。広範囲な河川の氾濫により、土砂崩れや道路の崩壊が多発し、交通機関の運休、高速道路や国道の通行止めも相次いで発生しました。

佐賀県武雄市では有明海の満潮と重なり六角川から越水、床上・床下浸水が1,756戸、土砂崩れが43箇所などの被害がありました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、避難所での被災者の収容人数が限られる中、浸水した家庭では家屋の2階に避難する在宅避難者が多く、その実態は把握しづらいことが現地関係者から指摘されていました。平成30年、令和元年、令和2年と豪雨災害が続いており、特に令和元年8月の被災地と今回の被災地では、被災地域が重なっています。2年前の甚大な被害からようやく復興へ歩み始めた矢先の今回の被災は、精神的にもまた経済的にも大きな痛手となっていました。

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会(以下シャンティ)は、被災地支援に取り組むため、2022年8月23日より佐賀県武雄市にスタッフを派遣し調査を開始しました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、佐賀県災害支援プラットフォーム(以下SPF)のガイドラインに従い活動を行いました。

初動調査・物資配布

発災2週間後の8月23日から、職員2名を派遣しました。平時からつながりのある団体や被災地域の寺院と連絡を取り、協力をいただきながら佐賀県武雄市の民間ボランティアセンターである一般社団法人「おもやい」(以下おもやい)を中心に、初動調査として在宅避難者への訪問活動及び物資配布を行いました。物資配布では在宅避難者でキッチンが使えない家庭が多いことからレトルト食品のセット、体を拭くボディシート、被災した家の掃除で必要となるタオルなどを配布しました。

シャンティは調査に基づいて、①傾聴サロンを通じた心のケア、②被災した世帯の子どもが休日に安心して過ごせる居場所づくり、③被災した放課後等デイサービス事業所と幼稚園に対する蔵書支援の実施を行いました。



在宅避難者への訪問活動



おもやいでの情報共有会議

【配布物資及び調査 実績】

- *対象ボランティアセンター…武雄市北方町おもやいボランティアセンター
- *対象地域…武雄市北方町、朝日町、橘町
- 食料配布・戸別訪問できた世帯数:106 世帯

サロン活動

サロン活動は、被災された皆さんが集まり、コミュニケーションを取りながら、思いを語ることができる場所を提供することを目的としました。おもやいと協働を軸に、現地ボランティア、外部支援団体と協力してサロン活動を実施。看護師による健康診断、建築士による工事の相談窓口、セラピストによるマッサージ、大学生ボランティアを中心とした足湯など専門家とも連携しました。

在宅避難者が多くコロナ禍で住民の集まる機会のない



傾聴サロンの様子

かった被災地では、地域で話す機会が欲しいという声がありました。地域の意向を取り入れながら、感染症対策に留意し、サロン活動の場づくりの調整、運営を行いました。

サロン活動実施当初は、「雨の音を聞くだけでも怖い」と声もあり、不安の中、生活をされている方もいました。活動を続けていく中で、「被災してから自分の思いを話す機会がなく、ゆううつな状態だった。この場所があって本当に救われた」との声も聞かれ出しました。1年ぶりに住民同士が集まったという地域もあり、コロナ禍で開催できなかった地域の寄り合いの再開にもつながりました。実施会場の公民館長からは「これからのサロンは、おもやい主体で運営は地域住民で続けていきたい」とお言葉を頂きました。結果的に、現地派遣が終了した11月末以降もサロン活動の継続に繋げることができました。



被災により床をはがした公民館

【サロン活動 実績】

9月20日～12月19日

対象地域:佐賀県武雄市北方町・朝日町・橘町

実施回数:22回

来場者数:579人

週末子どもの居場所

子どもの居場所活動は、以下を主な目的として実施しました。

- ① 被災地域の子どもたちが安全に楽しく過ごせる場所を提供し、被災後のストレスを子どもたちが軽減していくことにもつなげていくこと。
- ② 被災してからも平日働きに出ている保護者が、子どもを預ける場所があることで週末の片付けに専念し、心身ともにリフレッシュすることができる時間を作ること。

事業対象地域の武雄市内の小学校では、326名の児童中3分の1が床上または床下浸水の被害に遭い、実家や借家などでの仮暮らしを余儀なくされている状況でした。平日および土曜日は学童保育などのサービスもあるため、学童保育がない休日(特に日曜日と祝日)に実施しました。



令和元年8月豪雨の時に協働した「よりみちステーション」と共に、近隣寺院の境内、小学校、幼稚園の場所を借りて8月29日より開始。新型コロナウイルス感染症対策を行い、床上浸水被害を受けた世帯の子どもたちに声をかけて実施しました。発災が8月の夏休みで子どもたちが遊びたい時期でもありましたが、コロナ禍によりクラブ活動も休止している状況でした。加えて、被災後は実家や借家に避難している世帯がほとんどであり、いつもの場所、友達と遊ぶことができない窮屈な思いをしている子どもたちが多くいました。



子どもの居場所を通じて被災した子ども同士がふれあい、遊びに没頭することでストレスを発散し、心を安定させる機会となりました。迎えに来た親も「こんなにたくさん子どもたちで遊んでいるのを久しぶりに見た」「普段寝付きが悪い子どもが居場所の日はぐっすり寝てくれる」と感動していました。ボランティアには、佐賀県内の大学生や武雄市内の高校生が参加。中には初めてボランティアに参加した人、将来子どもに携わる仕事に就きたい学生ボランティアもいて貴重な体験ができたと結果的に学びの場にもなりました。シャンティが撤退した後も、「よりみちステーション」は、感染状況を見ながら子どもたちに必要とされる限り子どもの居場所を継続したいと活動を継続しております。

【週末子どもの居場所 実績】

8月29日～12月19日

実施場所:佐賀県武雄市 勝満寺、北方小学校、旧北方幼稚園

実施回数:17回

参加者数:211人

蔵書支援

佐賀県武雄市の被災した幼稚園と発達障がい児等の放課後デイサービス事業所への蔵書支援を実施。支援先である2つの事業所はどちらも令和元年に引き続き2度目の床上浸水被害でした。

1ヶ所目は、武雄市内でも特に被害の大きかった「学校法人たちばな学園たちばな幼稚園」です。被災により蔵書のみならず読み聞かせに必要な備品や大型絵本や紙芝居、幼児用本棚が被災し経済的に大きな負担を受けていました。

2か所目は、2度の被災により活動の継続が困難であった「児童支援事業所ガラパゴス」です。被災により活動拠点を失い、野外や臨時拠点として中学校に間借りをして活動を再開しました。しかし、間借りしている中学校の図書室を自由に利用することができず、配架されていた蔵書のほとんどが浸水被害を受けたという理由で子どもたちの図書に触れる機会がなくなっていました。受け入れる子どもの中には被災後の大きな環境の変化からストレスを抱えて



被災した児童支援事業所ガラパゴスの建物内部



中学校の図書館を間借りして運営する児童支援事業所ガラパゴス

た。事業所管理者からは、「小学生から高校生まで受け入れていることもありジャンル(絵本や図鑑など)に幅を持たせてリクエストさせていただいた。それにより、落ち着いてひとりの時間を持ちたい子どもが本の世界に入り込むきっかけ作りができた」とのコメントをいただきました。

おり、臨時の拠点では落ち着かず、それを理由にデイサービスに参加できない子どもがいました。また、年齢が高くなるにつれ、ひとりで過ごす時間を持ちたいという子どもが多く、蔵書支援の緊急性は非常に高くと判断されました。

自由に読書できることは、心の安定につながり、被災経験を乗り越えて復興に向かうための重要なプロセスの一環となると考え、二つの事業所に対し、計 1,005 冊の蔵書書架および読み聞かせ用備品を支援しました。

支援後に蔵書活用のモニタリングを実施しましたが、事業所のカリキュラムの中に読書の時間が新たに組み込まれていたことが分かりまし

【蔵書支援の実績】

対象施設…学校法人たちばな学園たちばな幼稚園、
児童支援事業所ガラパゴス
支援内容…蔵書計 1,005 冊、2 校に対して書架



たちばな保育園に寄贈した本棚と絵本

職員派遣は 2021 年 11 月末で終了しました。

それ以降は地元団体の協力を頂き、活動に必要な情報提供、関係団体との連携、資金提供など現地活動を後方からサポートする形で支援を行いました。

今回新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した災害対応となりました。県外から支援団体に対して「佐賀災害支援プラットフォーム(SPF)加盟団体による「コロナ下での域外への支援要請等のためのガイドライン」に沿って活動するように、中間支援組織である SPF が調整を行い、シャンティとしても、その方針に従って現地での活動を行いました。加えて、シャンティの派遣職員は、PCR 検査で陰性を確認したうえで毎日の健康管理シートの記録をし、感染症対策を行いました。今後も現地で出合い協力してきた団体と連携し可能なサポートを続けていきます。

事業実施期間

2021年8月28日～12月31日

(調査スタッフ派遣は8月23日から、現地へ職員派遣は11月30日まで)

会計報告

【収入】

項目	金額(円)
ジャパン・プラットフォームからの助成金	3,038,747
日本テラワータ仏教協会からの支援金	1,400,000
日本財団からの助成金	1,000,000
生活協同組合パルシステム東京からの支援金	400,000
その他支援金	628,624
合計	6,467,371

【費用】

	項目	金額(円)
現地事業 実施経費	物資配布	71,343
	サロン活動	137,854
	蔵書支援	1,543,053
	子どもの居場所	200,799
	共通経費	1,037,816
	移動・宿泊費	945,996
	職員(派遣スタッフ)人件費	1,285,772
	職員(本部スタッフ)人件費	484,400
	一般管理費	646,737
	監査費用	80,000
	費用総額	6,433,770

* 収益と費用の差額の33,601円は、SVA国内緊急人道支援準備寄附金へ振替。

* 当事業は、主に、「ジャパン・プラットフォーム」「日本財団」「日本テラワータ仏教協会」「生活協同組合パルシステム東京」からの助成金と皆様のご支援を受けて実施しました。

発行日:2022年4月1日



公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会
地球市民事業課
東京都新宿区大京町31 慈母会館2,3階
TEL 03-5360-1233
FAX 03-5360-1220
URL <https://sva.or.jp/>